

論文審査の要旨および担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	早 田 吉 伸
論文審査担当者：	主査	慶應義塾大学教授	博士（工学） 前野 隆司
	副査	慶應義塾大学教授	博士（システムエンジニアリング学） 白坂 成功
	副査	東海大学教授	博士（情報科学） 河井 孝仁
	副査	米州開発銀行理事	博士（学術） 保井 俊之
（論文審査の要旨） 早田吉伸君提出の学位請求論文は「社会課題解決のための協働の場の研究－先導的市民大学とフューチャーセンターに基づく統合モデルの提案」と題し、7章から成る。 近年、社会の急速な変化を背景に社会問題が複雑化・肥大化する一方、行政のパワーが相対的に縮小していく中、公共の捉え方が大きく変化している。このため、市民と行政が協働することで課題解決にむけて創発を生み出すプラットフォームとしての場が強く求められている。しかし、従来の研究の範囲では、協働の場を社会に一般化してくためのモデルの提示が十分とはいえなかった。このため、本研究では、公共領域でのイノベーションに寄与するための場の研究を実施した。具体的には、「学習の場」である市民大学と「実践の場」であるフューチャーセンターの2つの観点に基づく仕組みづくりに関する統合モデルを提案した。 第1章では、まず、公共概念の変化と協働を取り巻く状況を俯瞰し、整理・分析した。次に、市民協働の研究において行政と市民の協働の場が重要であること、特に「学習」と「実践」の観点が重要であること明らかにした。 第2章では、既存の学問領域の研究に基づき、協働の場の概念を明確化した。行政学や公共政策学におけるガバナンス論の研究を軸に、新たに教育学における学習論と経営学における知識経営論（イノベーション）の視点からの考察を加えて「学習の場」と「実践の場」からなる協働の場の概念を示した。 第3章では、市民協働の最新の動きであるオープンガバメントの取り組みを調査分析し、事例検証した。協働が進んでいる地域において「学習の場」と「実践の場」が機能していること、また二つの場が相乗効果を発揮していることを明らかにした。 第4章では、先導的市民大学が「学習の場」として機能していることを指摘し、これに基づく「学習の場」のモデルを提案した。またこのモデルに基づく施行プログラムを実施し、本モデルが有効に機能することを検証した。 第5章では、海外で先行しているフューチャーセンターが「実践の場」として機能していることを指摘するとともに、これに基づく「実践の場」のモデルを提案した。またこのモデルに基づく施行プログラムを実施し、本モデルが有効に機能することを検証した。 第6章では、2つの場のモデルの課題を分析した上で、「学習の場」と「実践の場」を統合し、全体としての協働の場のモデルを示した。その上で、試行プロジェクトとしての未来教育会議を実施し、考察を行った。 最後に第7章では、本研究の意義と成果についてまとめるとともに、今後の可能性と具現化に向けての提言を行った。 以上要するに、本研究は、市民と行政の協働のための場に関する行政学や公共政策学等の研究に、教育学や経営学からの新たな視点を加え、幅広い先行研究や国内外の事例研究から学際的な示唆を得るとともに、システムデザイン・マネジメント学を用いて、協働の場のモデルを統合的にデザインしたものである。このため、本研究は、システムデザイン・マネジメント学上の寄与が少なくない。従って、本論文の著者は博士（システムデザイン・マネジメント学）の学位を受ける資格があるものと認める。			